

- 主な内容 -

P2 | カヌーのまち、西川。

P10 | にしかわ歴史めぐり



月山朝日観光協会イメージ
キャラクター「ガッさん」

NETWORK

にししかわ

2021

令和3年

8月号

No.785

特集 カヌーのまち、 西川。

雄

大な自然に囲まれた、穏やかな湖面が魅力の月山湖。夏場になると湖面には子どもたちが乗った色とりどりの艇が浮かびます。水面に力強くパドルを差し込み、子どもたちは自らの力で遠くへ遠くへと漕いでいきます。

西川でカヌーと共に育った子が選手となり、指導者となり、次世代を育てる——そうして築き上げられてきたカヌーの歴史は、まさに町の誇る宝です。

今年オリンピックが開催され、カヌー競技の出場選手が月山湖に事前合宿に訪れるなど、本町にとってカヌーイヤーとなった1年。今号ではカヌーに関する事業について改めて振り返り、ご紹介していきます。

西川から世界を目指せ！ まちなスポーツ「カヌー」

全国大会や世界選手権で活躍する一流選手を多数輩出してきた本町。長年、小学校の児童を対象とした「西川町少年少女カヌー教室」や、「ブナの森自然学校」でのカヌー体験などを教育プログラムに取り入れ、子どもたちがカヌーを楽しく学ぶ機会を設けています。

地域の選手に愛され30年。 月山湖競技場のあゆみ

月山湖カヌースプリント競技場は寒河江ダムの竣工と合わせて整備され、平成3（1991）年に全長500mのコースが完成しました。ベにばな国体カヌー競技（1992年）を開催した後も、全国中学生カヌー大会（1995年以降全8回）や、日本カヌージュニアスプリント選手権大会（2014年）、インターハイカヌー競技（2017年）など、全国規模のレースを多数開催してきました。

本競技場は波や風が選手に与える影響が少なく、湖面の状態が良いため、多くの選手や関係者から優れた競技場として評価を受けています。

昨年7月には待望の1000mコースが完成し、大学生以上の大会で行われる1000mのレースや、国際大会レベルのレースにも対応できる競技場へと生まれ変わりました。今後、町ではこのコースを活かしてさまざまな大会や合宿の誘致を行い、地域活性化に繋げていく予定です。また、西川中学校カヌー部をはじめとする地元選手たちの競技力向上が期待されます。



写真：1.西川小児童を対象に毎年開催している「西川町少年少女カヌー教室」の様子／2.西川小5年生の「ブナの森自然学校」内で行われたカヌー体験。細谷信太郎さん（海味）が講師となって児童に乗り方を指導／3.令和2年に整備された月山湖のカヌースプリント競技場「1000mコース」／4.6月26日・27日に開催された山形県中学校総合体育大会カヌースプリント競技。男子カヤックフォアで力漕を見せる西川中カヌー部の皆さん



月山湖から世界へ

東京2020オリンピックに向けて、西川町に日本・モルドバ・チリの計6名の選手が事前合宿に入り、大会本番に臨みました(写真は月山湖での練習風景)。



セルゲイ・タルノブスキ 選手(モルドバ)
出場種目: 男子カナディアンシングル1000m



小野 祐佳 選手(日本)
出場種目: 女子カヤックシングル200m



マリア・オララシュ 選手(モルドバ)
出場種目: 女子カナディアンシングル200m
女子カナディアンペア500m



ダニエラ・コチュ 選手(モルドバ)
出場種目: 女子カナディアンシングル200m
女子カナディアンペア500m



マリア・ホゼ 選手(チリ)
出場種目: 女子カナディアンシングル200m
女子カナディアンペア500m



カレン・ロコ 選手(チリ)
出場種目: 女子カナディアンペア500m

カヌーで繋がる絆 ～西川町ホストタウン推進事業～



▲東京2020オリンピックの事前合宿で西川町に滞在したモルドバ共和国選手団の皆さん

モルドバ共和国の選手団と地元の子どもたちが交流

本町は東ヨーロッパの「モルドバ共和国」と2018年にホストタウン協定を結び、交流促進事業として「モルドバカップ・カヤック&カヌー スプリント選手権」や、オンライン交流会を開催するなどの取り組みを進めてきました。

モルドバ選手団は東京2020オリンピックに向けた事前合宿のため7月15日に来町し、キャンペーンしました。7月18日に開催された「モルドバカップ」では、モルドバ代表



写真: 1.月山湖を会場に行われた「モルドバカップ」の様子。地域の子どもたちがモルドバ選手団とパドルタッチをして親交を深めた/ 2.モルドバの東京五輪代表選手3人が月山湖で乗艇。子どもたちを前に力漕ぎを披露した

選手と監督陣が出席し、エントリーした小中高生86名の競技終了後、セルゲイ・タルノブスキ選手、ダニエラ・コチュ選手、マリア・オララシュ選手の3人が湖面に登場。3人は大会本番で使用するカヌーに乗ってパドルさばきを披露し、一流選手の力漕ぎをの当たりにした会場からは盛大な拍手が湧き起こりました。

本町では、今後もカヌーを通じてモルドバ共和国と友好な関係を築いていくと共に、西川の子どもたちの国際交流の機会として、ホストタウン事業を継続していく予定です。

熱中症予防 × コロナ感染防止で 「新しい生活様式」を健康に!

「新しい生活様式」とは：新型コロナウイルス感染防止の3つの基本である ①身体的距離の確保
②マスクの着用 ③手洗いの実施や「3密(密集、密接、密閉)」を避ける、等を取り入れた日常生活のこと。

注意 マスク着用により、熱中症のリスクが高まります

マスクを着けると皮膚からの熱が逃げにくくなり、気づかぬうちに脱水になるなど、体温調節がしづらくなってしまいます。暑さを避け、水分を摂るなどの「熱中症予防」と、マスク、換気などの「新しい生活様式」を両立させましょう。



熱中症を防ぐために マスクをはずしましょう

ウイルス
感染対策は
忘れずに!



屋外で
人と2m以上
(十分な距離)
離れている時

十分な距離

激しい運動は避けましょう

のどが渇いていなくても
こまめに水分補給をしましょう



気温・湿度が高い時は
特に注意しましょう



マスクをしてると
熱中症になりそう...

..... (マスク着用時は)



新型コロナウイルス感染症に関する情報：
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html
熱中症に関する詳しい情報：<https://www.wbgt.env.go.jp/>



◆今月のおすすめBOOKS◆

新着図書の中からおすすめの4冊をご紹介します。



「作家と犬」
編集・出版/平凡社



「婿どの相違席」
著/西條奈加
出版/幻冬舎



「にげてさがして」
著/ヨシタケシンスケ
出版/赤ちゃんとママ社



「答えはひとつじゃない!
想像カススイッチ」
編著/下村健一
出版/汐文社

図書館さ、いぐぐぐ。

◆8月のおはなし会のお知らせ◆

日時：8月21日(土) 10:30から
内容：絵本…「ばけバケツ」・「三びきのやぎのがらがらどん」・「おにのパンツ」など

**西川町を空撮した
動画を紹介します**

西川の「まちづくり応援団」の高野明さんより、西川町の観光地や風景をドローンで撮影した美しい映像を提供していただきました。高野さんは「もっと多くの方から西川町に来ていただきたいという想いで制作しました」と話してくれました。本動画は今後、観光PRに利用させていただく予定です。ぜひ「新緑の西川町ユーチューブ」で検索し、ご覧ください。



**それぞれ
道に輝いて**

長年、本町の統計調査員を務めてこられた荒木啓一さん(原)に村山地区統計調査員協議会連合会から感謝状が贈られました。荒木さんは平成4年から28年にわたり原地区の統計調査員として尽力されてきました。感謝状を手にした荒木さんは「長年務め続けることができたのは、調査に快く協力してくれた地域の方々のおかげです。このような感謝状をいただけて光栄に思っています」と話してくれました。



2021年は、承久の乱のちに大江親広が入部してからちょうど800年とされる節目の年。今年度、町では大江親広公入部800年を記念した「安中坊別当屋敷跡」の整備工事や、安中坊を巡るツアーの実施を予定しています。本シリーズでは、西川町と大江氏のあゆみについてご紹介いたします。節目の年を迎えたこの機会にぜひ、郷土の歴史に触れてみましょう。



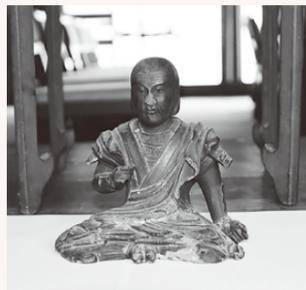
▲大江親広公(左)と多田仁綱公(右)の五輪塔(吉川・阿弥陀屋敷)

助命嘆願などがあつたものと考えられます。中岫から祖父・仁綱の居る吉川に移った親広。彼のもとに父・広元の死が鎌倉から伝えられたのは嘉禄元年(一二二五)でした。広元は78歳で亡くなります。親広は長男の佐房に鎌倉で阿弥陀像を造らせ、その胎内に多田源氏の祖である多田満仲の念持仏と亡き父・広元の遺骨を納め、吉川に阿弥陀堂を建てて安置しました。仁綱は広元の死の一月後仏門に入り、阿弥陀堂の別当になります。のちに仁綱は文暦元年(一二三四)に亡くな

り、阿弥陀堂の傍に葬られます。親広は仁治二年(一二二四)に亡くなり、同じく阿弥陀堂の傍に葬られます。親広が亡くなる半年前に阿弥陀堂は館の鬼門に移されます。これが現在の吉川地区・阿弥陀屋敷の地名の由来といわれています。

親広随従の家臣

親広が下向した時のわずかな家臣の中に「吉川高橋氏」と「入間佐藤氏」がいました。『高橋家系図』には、親広が「月山神を勧請、神田二千束刈を寄進し、高橋満明を月山神社の祭主とした」と記されています。



▲多田仁綱公の木像(吉川・吉祥院)

多田仁綱と大江氏 『安中坊系譜』によると、広元の命を受け寒河江荘に入部してきたのは、広元の妻の父で摂津の多田源氏に連なる多田仁綱でした。文治六年(一一九〇)、はじめは本楯(寒河江市)に屋敷を構え、やがて吉川に移ります。「吉川」の地名は仁綱の故郷「摂津吉川邑」に似ているので付けたとのこと。 「承久の乱」で敗れた上皇側の親広に対する処分は「謹慎」という軽いものだったのかもしれない。これは父・広元の多大な功績によって軽く済んだか、もしくは一族の

親広以降の大江氏

地頭・大江氏が本格的に寒河江荘に入部したのは十三世紀末といわれており、安中坊七代・元顕の時『天文本大江系図』に「羽州寒河江持初也」と記されています。

元弘三年(一一三三)、新田義貞・足利尊氏らにより倒幕の兵が挙げられ「元弘の乱」が起こり、鎌倉幕府は滅亡します。『大沼大行院系図』によれば、幕府滅亡後、元顕の三男懐顕、四男政顕が大江町の貫見に下向したとされます。この貫見大江氏は、大井沢・見附の渋谷氏と関係が深かったようです。

この時期の資料として、海味太郎阿弥陀堂の木製五輪塔があります。これは西川町にあって最古の紀年銘資料です。「元徳四年(一一三三)壬申六月二十一日信性禪(尼)」と記されています。「信性禪(尼)」は、元顕の妻と推測されます。

寒河江大江氏の滅亡

正平二十四年(一二九九)、南朝方の大江氏は、「漆川合



▲大江高基公と家臣の墓地(大江町・御館山)

文責/西川町郷土史調査員

清野幸夫

戦」で北朝方の斯波兼頼に大敗します。

寒河江大江氏最後の城主・高基は、吉川基綱の長男で安中坊二十一代当主でした。後継者問題から寒河江城主・兼広の娘を妻に寒河江大江氏を継ぎます。しかし天正十二年(一五八四)、寒河江大江氏は最上義光に攻められ滅ぼされてしまいます。高基は貫見の御館山で自害します。 寒河江大江氏滅亡後、安中坊二十三代良光はさまざまな辛酸をなめました。最上氏の傘下となった旧臣等の嘆願により、最上氏の庇護を受けて最上氏の為に奉公します。

お元気ですか?

まちの保健室から PART 280



伊藤貢さん

適切な運動指導で健康づくりを応援します!

太ももの内側や背骨のストレッチ

暑くても気軽にできる、太ももの内側や背骨全体(首・背中・腰回り)のストレッチをご紹介します。

- ①椅子に座り、両足をできるだけ大きく開き、手で両ひざを押さえる。
- ②天井をのぞき込むように視線を動かしながら肩を内側に入れる。両ひざが内側に動かないように手でしっかり押さえる。
- ③呼吸をゆっくり5回程度くり返し、反対側も行う。



※柔軟性には個人差があります。ご自身の体に合わせた無理のない体勢で行ってください。
※痛みは体からの赤信号のサインです。体に痛みを感じた時は運動を中止してください。

◆運動強度(メッツ)を意識しましょう!

今回は「運動の強さ」についての話です。運動の強さを表す単位に「メッツ(METS)」というものがあります。これは、座っている状態(安静時)を1としたとき、体の動き(身体運動)が、その何倍のエネルギーを消費するかを表します。日常生活で行う「掃除機をかける」は3・3メッツ、「お風呂掃除」は3・5メッツです。普段の生活をメッツで考えると、さまざまな運動と比較する指標になります。ぜひ、メッツを意識しながら楽しく運動してみよう。 ※興味のある方は「国立健康・栄養研究所」のホームページで「改訂版『身体活動のメッツ(METS)表』」を調べてみてください。

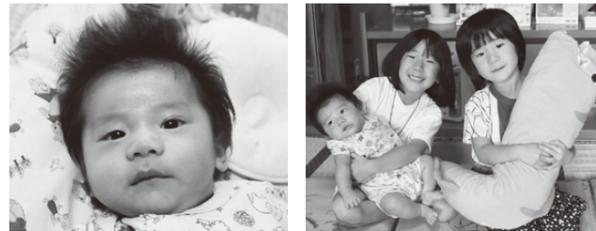
第3子誕生、おめでとうございます！

大泉泰俊さん・晃子さんご夫妻（入間）に5月31日、第3子となる颯真（そうま）くんが誕生しました。

8月4日、小川町長が大泉さん宅を訪ね、お祝い金を贈呈しました。

颯真くんの誕生で初めて弟ができた真奈ちゃん（まな・6歳）と真帆ちゃん（まほ・4歳）。長女の真奈ちゃんは「小さくてかわいいです」と笑顔。お姉ちゃん2人で颯真くんをととても可愛がっており、颯真くんが泣いていると抱っこしてあやしてあげるのだそうです。

泰俊さんと晃子さんは「名前のとおり、さわやかにまっすぐ前を向いて育ててほしいです」と話してくれました。



保育の理念：子どもに愛と生きる力を

保育目標

- 雪のようにきらきら輝く子
- 緑のようにやさしくあったかい子
- 太陽のようにつよくたくましい子

大切にしていること

- ★しっかり見つめること
- ★ぎゅっとハグすること
- ★自分の興味を満喫させてあそぶこと
- ★思いっきりカラダを動かすこと
- ★大人みんなで精一杯愛すること
- ★大人も育つこと

わいわいひろば 第123号



保育園コーナー
「夏祭りごっこを満喫！」
 7月14日に夏祭りごっこが開催されました。当初予定していた日程があいにくの雨天だったため、延期して園内で「夏祭りごっこ」を行うことに。みんなで園内をお祭り会場のようになり付けました。夏祭りを楽しみにしていた子どもたちは、くじ引きでおもちゃを当てたり、お菓子づくりをしたりと、園内でお祭り気分を味わいました。



聖火リレーの感動再び

ケアハイツ西川で聖火リレーを再現

東京五輪を前に7月15日、西川町の聖火ランナーを務めたケアハイツ西川の職員、和賀光さん（間沢）が、同施設内で聖火リレーを再現しました。和賀さんは本番と同様の衣装でトーチを掲げ、入所者一人ひとりに声をかけながら施設内を周りました。実際にトーチを持った入所者の方々は嬉しそうにトーチを掲げ、周囲からは盛大な拍手が起きました。入所者で和賀さんの祖父・繁雄さんは、光さんと共にトーチを持ち「めったに持てないものだ」と笑顔を見せました。



手作りの知育絵本を子どもたちへ

にしかわ保育園に手作り絵本寄付



片倉ひさゑさん（間沢）から手作りの知育絵本のご寄付をいただきました。保育園で大切に活用していきます。



「本坊さんから七夕の笹竹プレゼント」
 「山形住みます芸人」の本坊元児さんが7月5日、にしかわ保育園に立派な笹竹をプレゼントしてくださいました。笹竹のお礼にみんなで合唱を披露し、元気いっぱい歌声に本坊さんは笑顔で喜んでくれました。最後は園児たちとの記念撮影にも応じていただきました。いただいた笹竹は、みんなで作った飾りや短冊などを付け、玄関に設置。豪華な七夕飾りが出来上がりました。本坊さん、素敵なプレゼントをありがとうございました！



「7月の活動をお知らせします」
ぽっかぽかコーナー
 7月のぽっかぽかでは「七夕の会」で短冊作りをして楽しみました。大人気の「ハッピータイム」では、ジョー先生と英語を使って楽しく遊びました。たくさんの方からご参加いただき、ありがとうございました。

仲間とともに自然を満喫！2泊3日のブナの森自然学校

西川小5年生ブナの森自然学校



月山・姥ヶ岳で記念撮影

「ブナの森自然学校」は、子どもたちが月山山麓の豊かな自然の中で友達とさまざまな自然体験に挑戦することで、ふるさととの自然と関わる楽しさを学ぶ、西川町ならではの特色ある教育プログラムの一つです。今年も西川小学校の5年生26人が参加して行われました。

1日目は月山ベアリフトに乗って高山植物を観賞し、ネイチャーセンターまでトレッキングをしました。その後、活動拠点のオートキャンプ場に各班ごとテントを張り宿泊。2日目は選別グループ活動で「ブナの森ウォーキング」、「カヌー」、「六十里越街道ウォーキング」が行われました。



2日目の夜はキャンプファイヤーで盛り上がった



月山湖でカヌー体験などを楽しんだ

あいにくの雨模様でしたが、仲間と共に協力して過ごした2泊3日は子どもたちにとって特別な体験になったようです。

地域の歴史文化を再発見

西川町歴史文化学習会

西川町の歴史について知識を広げてもらうことを目的とした「西川町歴史文化学習会」が7月7日に交流センターあいべで開催されました。

第1回目の学習テーマは「大江親広公入部800年」で、町郷土史調査員の清野幸夫さんが講師となり、中世に西村山地区を治め、現在の吉川地区に屋敷を構えたとされる大江氏の講話が行われました。

本学習会は今年度全6回にわたり開催され、多角的に西川町にまつわる歴史や文化のあゆみについての学習会を予定しています。



今年度第1回目の学習会の様子

町内に七夕の笹竹を贈呈

住みます芸人・本坊元児さん

「山形住みます芸人」として活動するお笑いコンビ「ソラシド」の本坊元児さんが7月5日、町内の施設を回り、綱取地区の竹林で間伐した笹竹を七夕飾りに贈りました。

笹竹を贈ったのはケアハイツ西川・とこしえ西川・にしかわ保育園・西川小学校・放課後子どもプランの5施設。小学校と放課後子どもプランでは七夕飾りを一緒に飾り付けるなど、子どもたちと交流しました。

本坊さんは「地域の可愛い子どもたちと初めて触れ合うことができて嬉しいです」と笑顔で話してくれました。



子どもたちの七夕の短冊を飾り付けてくれた本坊さん

各選手に漢字でエールを贈る

ケアハイツ西川の皆さんが選手に寄せ書き贈呈

ケアハイツ西川の皆さんが7月27日、本町で東京五輪の事前合宿を行っていた、カヌースプリント競技の各国選手団に寄せ書きを贈りました。

贈られた寄せ書きは各選手それぞれへ応援メッセージとして漢字一文字が記され、その周りに入所者一人ひとりの応援メッセージが書かれたもの。完成品は生涯学習課を通して各選手に届けられました。

寄せ書きを手にしたチリのカレン・ロコ選手とマリア・ホゼ選手は「宝物にします！」と笑顔を見せていました。



寄せ書きを受け取ったチリ代表のロコ選手とホゼ選手

各国の言葉で応援メッセージ

西川小全校生が選手に寄せ書き贈呈

東京五輪の事前合宿を行っていたモルドバ・チリ・日本の選手たちを応援しようと、西川小学校全校児童が力を合わせて寄せ書きを作成しました。

児童を代表して鈴木琥葉久さん（間沢）・古澤穂乃花さん（同）・大場音羽さん（同）・黒坂亮生さん（同）の4人が7月21日に交流センターあいべを訪れ、寄せ書きを前田雅孝教育長に託しました。

6選手と木村文浩日本選手団監督（海味）に宛てられた寄せ書きは、各国の言葉で「来てくれてありがとう」「頑張ってください」などと記されていました。



西川小児童の寄せ書きが前田教育長に託された

さい」などと記されていました。

秋に向け菊づくりを学ぶ

菊づくり講習会

町役場第二庁舎で7月9日、今年度2回目の菊づくり講習会が行われました。

これは西川町の花である「菊」の栽培技術の向上と後継者育成のため、西川菊まつり実行委員会が主体となって毎年開催しているものです。

講習会当日は三山重陽会役員の方や、菊まつりに向けて菊の栽培を行っている方など15人が参加。山形県菊友会の細谷会長を講師に招き、菊花の栽培技術について指導を受けました。参加者は講師の話に熱心に耳を傾けていました。



菊の育て方について講師の方に教わる参加者

大井沢で生き物と触れ合う

川の生き物観察とイワナつかみどり体験

西川町自然教育学習センター主催のイベント「川の生き物観察とイワナつかみどり体験」が7月24日に開催されました。

本取り組みは一昨年に第1回目が開催され、今年度で2回目。当日は町内をはじめ県内の親子併せて約30人が参加。大井沢自然博物館近くの河原で水生生物探しとイワナのつかみどり体験を楽しみ、獲れたイワナを塩焼きにして味わいました。

子どもたちにとって自然の中で楽しみながら川の生き物について学ぶことのできる、貴重な経験となったようでした。



親子で水生生物探しに没頭

今月の「#いいべ西川」



7 月下旬、大井沢自然博物館の入り口付近に大輪のユリが連なって咲いているのを発見。遠くからでもわかるほど甘い香りが漂っていました。同館は9月26日まで夏期限定の企画展も開催中です。夏休みのお出かけにぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

▶ Instagram

西川町公式アカウント「@iibegassan」



IIBEGASSAN

今月の表紙

にしかわ保育園の畑に植えられたジャガイモが収穫の時期を迎え、7月30日、年長児が人権擁護員の皆さんと一緒にジャガイモ掘りを行いました。子どもたちにカメラを向けると、一本の茎にいくつものジャガイモが付いているのを得意気に見せてくれました。



編集雑記

広報担当になって4カ月ほど経ち、気づけば夏真っ盛り。毎月やってくる締切にもどうにか慣れてきた…と思った矢先、8月号の締切は通常より一週間も早く、大慌てで編集することに。

記事を書きながら、夏休み最後の3日間で必死に宿題をしていた学生時代の思い出がよみがえりました…。来月も頑張ります。
(板花)

西川町について詳しく知りたい方、ご意見・お問い合わせなどは、町のホームページ<http://www.town.nishikawa.yamagata.jp>をご覧ください。



8/1 現在の人口と世帯数 人口 男 2,401人 女 2,572人 計 4,973人 世帯数 1,822 ()は前月比
(-1) (-3) (-4) (-2)